

第59回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第59回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和5年6月30日（金） 午後3時30分～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<p>(1) 河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</p> <p>(2) 河内長野市地域公共交通会議の概要について</p> <p>(3) 令和6年度生活交通確保維持改善計画（フィーダー）の認定申請について</p> <p>(4) 地域との協働の取り組みについて</p> <p>①石見川地域「地域乗合タクシー（定時定路線型・予約デマンド型）」および住民混乗スクールバス「楠坊」の運行状況</p> <p>②楠ヶ丘地域「くすまる」の利用率向上の取り組み（アンケート結果等）</p> <p>(5) モックル MaaS の取り組み状況について</p>
会議内容	別紙会議内容のとおり

## 第59回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第59回河内長野市地域公共交通会議開会の案内</li> <li>➤ 委嘱状の交付</li> </ul>
島田市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ &lt;島田市長より挨拶&gt;</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各委員の出欠状況の報告</li> </ul>
榊井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ &lt;榊井会長挨拶&gt;</li> </ul>
<p style="background-color: #e0e0e0; margin: 5px 0;">議題（1）河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</p>	
榊井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 規則第5条第3項及び規約第11条第2項の規定に基づき、副会長に日野委員を、監事に山田委員・徳竹委員を指名。</li> <li>➤ それでは、議題（2）河内長野市地域公共交通会議の概要について、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
<p style="background-color: #e0e0e0; margin: 5px 0;">議題（2）河内長野市地域公共交通会議の概要について</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 議題2について説明</li> </ul> <p style="margin-top: 10px;">（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 河内長野市は、公共交通の取り組みにおいて、先進的な取り組みをしており、他の地域の公共交通会議でもよく紹介しています。一方、どの地域の総括を聞いていても、公共交通の利用者は減少しているという話が多い。アフターコロナで利用客が8割まで戻ってくると予想されているが、少子高齢化により、人口が減少していくことも懸念される。これらの影響により、公共交通の利用はさらに減少していく可能性がある。今後の公共交通は、利用者増よりも市民の移動サービスを満足させるということが必要ですが、これだけでは事業者あるいは各路線の維持がなかなか難しいかもしれません。公共交通に投資をすることが必要不可欠です。ただ、税金を一部の地域に限って補助をするということは公平性にも欠けるため、市民の皆さんから了承を得るためにバス事業全体に対して投資をしていくことが必要です。公共交通に対する投資とその効果・評価をしっかりと整理した上で、計画の中に大きな枠組みとして取り入れてほしい。ここの地域にはこんな対応をしている、利用者が便利になったとちゃんと評価できる仕組みをイメージして行って、説明することで多くの市民に</li> </ul>

	理解されると思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 利用者が評価できるような仕組み作りを考えていきたいと思います。ありがとうございました。</li> </ul>
榎井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ありがとうございます。それでは、議題（3）令和6年度生活交通確保維持改善事業（フィーダー）に関する事業評価について、事務局からお願いします。</li> </ul>
	<p>議題（3）令和6年度生活交通確保維持改善事業（フィーダー）に関する事業評価について</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 議題3について説明。</li> </ul>
榎井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 議題（3）については、審議の結果、承認ということによろしいでしょうか。また、今後、審査過程における表現等の細かな修正や、補助事業の実施要領に規定される範囲内の軽微な運行内容の変更があった場合は、事務局に一任いただくということによろしいでしょうか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p>
榎井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ありがとうございます。それでは、次に移らせていただきます。</li> </ul>
	<p>議題（4）地域との協働の取り組みについて</p> <p>①石見川地域「地域乗合タクシー（定時定路線型・予約デマンド型）」および住民混乗スクールバス「楠坊」の運行状況</p>
事務局	<p>議題（4）①について説明。</p> <p style="text-align: center;">（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
榎井会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 去年4月から廃線になり、地元の方も大変になり、公共交通を預かる人間として、住民から相談が多くありました。地域住民と相談していく中で、住民も混乗可能なスクールバスという珍しい取り組みを始めました。実際にそれだけで補完できない所は、乗合タクシーという形で対応しています。今回、立ち上げ当初から検討会メンバーに入っている田和辻委員が出席されていますので、一</li> </ul>

	<p>言お願いできますでしょうか。</p>
田和辻委員	<p>➤ 現在私は検討会には参加していませんが、廃線当時は話し合いに参加させてもらっており、住民が少ないことが大きな問題でした。小中学生のこどもたちにスクールバスを継続して利用させてもらえることになり助かっています。また、一般の住民も便乗して乗ることができ非常に助かっています。高校生以上の学生や通勤をされている中で車を利用せず公共交通機関を利用する方に、朝早い時間に1本と夜8時台に1本を確保してほしいとお願いしました。資料に載っている運行時間は住民の意見を反映してもらっています。しかし、当初は利用すると言って言っていた人も途中で利用しないと意見が変わる中で利用状況は非常に厳しい状況になっています。</p>
田中委員	<p>➤ 石見川の取り組みについて、田和辻様からもご意見もらいましたが、バス路線の廃線となって、地域でどうしていこうかと事務局も地元に入り、一生懸命議論をしてきました。新しい路線とか不便地域とかそういうところにバスを入れてほしいといういろんなご要望はありますが、市としては地元も一緒になって路線を支えようという意識を持って欲しいと思っています。石見川でいくと、目標値2人になっているのは、2人乗ることで運行経費の半分を賄えるからです。乗合タクシーの運行経費の半分に関しては、自治会から出すよと言ってきており、半分まで足りない分は自治会で負担するということになっています。この路線を維持しよう、未来に残そうということで、地元も積極的に取り組んでくれています。市としても非常に良いモデルで取り組みだと考えています。今年からは、乗合タクシーのサイズも大きくしており、公共交通事業者さんとも一緒に取り組んで進めていきたいです。</p>
榊井会長	<p>➤ 続いて、楠ヶ丘地域「くすまる」の利用率向上の取り組みについて事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>議題（4）地域との協働の取り組みについて ②楠ヶ丘地域「くすまる」の利用率向上の取り組み（アンケート結果等）</p>
事務局	<p>議題（4）②について説明。</p> <p>（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
伊勢先生	<p>➤ 通勤通学の帰りのお客さんを拾うために、ダイヤを変えるとの話でしたが、くすまるは、通勤通学の時間帯とは時間を合わせず、タクシーの利用者を奪わないように事業者との共存を図るということでその時間になったと思いますが、</p>

	<p>タクシー事業者とは調整できていますか。</p>
事務局	<p>➤ 本件に関して、第一交通さんに確認を取りました。17時発を17時10分、17時30分発を17時40分発という10分ずつ南海電車のダイヤに合わせた少しの変更になるので、問題ないとの事なので、この方向で進めております。</p>
伊勢先生	<p>➤ もう1点お伺いいたします。説明の中で需要が変わってきたとの話がありましたが、一方で駅前のニーズと一緒に考えると、その駅の拠点性が低下している。昔は、いろんな施設があってそこに行くことができたので、結構ニーズがあったが、コロナとか関係なく駅にあった施設が変わってきている。交通の拠点である駅のニーズを高めるために部署を超えてご検討いただけると幸いです。</p>
榭井会長	<p>➤ 伊勢先生の話のように、駅がより魅力的になれば、子どもやお年寄りが集まって駅自体再開発に繋がると思います。市の研修等もありますので考えていきたいと思えます。</p>
日野副会長	<p>➤ もともと地域の若い人から通勤に利用できるようにしてほしいという意見も出ていた。くすまる運行開始から10年たって、主たる利用者の方々が実際に歳を取って、外出しなくなった。新しい利用者の開拓をしないといけない。時代ごとに利用者のニーズは変わるので、タクシー事業者さんとの調整もあるけど、一部通勤に使いたいニーズに応えるのは良いと思う。長期的に5年先10年先誰が使うかっていうのは地域で議論していかないといけない。石見川についても、小中学生が今後どうなっていくか。何年かしたらいなくなる。今利用している人がいなくなったらどうするか、いろんな人に使ってもらうのが一番良いが、何年先現在の利用者がどうなるかは大体予想できる。それに対して、具体的に考えていくようにしてほしい。</p>
	<p>議題（5）モックル MaaS の取り組み状況について</p>
事務局	<p>議題（5）について説明。</p> <p>（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
岩佐委員	<p>➤ 南海バスの岩佐です。3ヶ月ちょっと経過して、事業者目線としてお話しします。</p>

	<p>従来のカードだと時間と販売場所は限られます。スマートフォンであれば、いつでもどこでも買えるというメリットがあります。例えば、休日の朝まだ営業窓口が開いていない時間、河内長野以外からバスに乗る方は窓口がない。スマホであればどこからでも買えるので我々の手が届かない所で運営してくれるため、大きなメリットになっています。ただ、少し課題があり、利用者が最初に使えるようになるまでハードルがあります。使い始めると便利な機能なため、リピーターの数字が高いです。最初のハードルに関しては、どう乗り越えていくのかを事務局と一緒に考えていきたいと思います。</p>
事務局	<p>➤ 岩佐さんの話にもあったように、事務局も一緒になって考えていきます。最初に使うハードルに関しては導入前に想定されていた通りです。まずは、どうやってアプリを入れるか、アプリを使うかの利用方法は市役所のホームページ等にも説明を載せています。100件前後閲覧があるので、これを見て使ってみようという方は多少なりともいると思っています。今年度スマホ教室みたいな形でアプリを紹介する場も設けたいと思っています。引き続きご協力よろしくお願いいたします。</p>
日野副会長	<p>➤ 先ほどの利用状況ですが、市外の利用者と市内の利用者の状況はわかりますか。</p>
事務局	<p>➤ 明確には分からない部分があります。利用者のスマホが動いた跡まで位置情報が残りますが、全利用者がスマホの位置情報をオンにしていないこともあり、完全には位置情報を把握できていません。ある程度推察はできますが、傾向としては、まだまだ市外から来られる方は少ないです。</p>
日野副会長	<p>➤ 市外の方に対して、観光名所などのお得なクーポンが出てくると、それで河内長野のことを知るきっかけになる。市外からくるとき、電車の時刻を調べる。電車の時刻を検索してみたら、アンダーバー等の動く広告で得なクーポンが出てくれば、リピーターになるかもしれない。市内、市外で分析してみたらいいんじゃないかなと思ったので、お聞きしました。</p>
事務局	<p>➤ ありがとうございます。引き続き、観光も含めて、秋以降に市外からの利用者が増えるような取り組みを検討したいと思っています。ありがとうございます。</p>
榭井会長	<p>➤ 他にないようでしたら、議題（5）のモックル MaaS の取り組み状況について終わらせていただきます。それでは、以上をもちまして、第59回河内長野</p>

	<p>市地域公共交通会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。今後とも、本市の公共交通の維持・充実に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます。本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>
--	---